

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が53例(男性23例(10歳代1例, 20歳代9例, 30歳代1例, 40歳代1例, 50歳代6例, 60歳代2例, 80歳代2例, 年齢非公開1例), 女性27例(10歳代1例, 20歳代6例, 30歳代4例, 40歳代3例, 50歳代6例, 60歳代1例, 70歳代2例, 80歳代3例, 年齢非公開1例), 性別及び年齢非公開3例)あり, 本年の累積報告数は21,017例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が2例(60歳代男性及び女性各1例)ありました。本年の累積報告数は34例となりました。
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が1例(60歳代女性)あり, 本年の累積報告数は10例となりました。
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が1例(60歳代男性)あり, 本年の累積報告数は14例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が1例(30歳代女性)ありました。症状は硬性下疳で, 感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は48例となりました。
- ・ **手足口病**の定点当たり報告数は, 京都市が1.21(52例)で前週の1.53(66例)からやや減少しました。全国は1.71で9週連続して増加しています。都道府県別では先週と同様, 山口, 福岡, 佐賀, 熊本, 大分, 宮崎各県で警報レベルの発生状況で, 主に九州地方での流行がみられます。京都市では流行と言える状況にありませんが, 今後の動向に注意が必要です。
- ・ **ヘルパンギーナ**の定点当たり報告数は, 2.07(89例)と前週の1.33(57例)より増加しました。

◆ 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

京都市のヘルパンギーナの定点当たり報告数は, 2.07(89例)と前週の1.33(57例)より増加しました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 8例(肺結核 4例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 3例)
【1月以降の累積報告数 193例(肺結核 65例, その他結核 60例, 潜在性結核感染者 68例)うち喀痰塗抹陽性 31例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 53例**【1月以降の累積報告数21,017例】
- ・ 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2例【1月以降の累積報告数 34例】
- ・ 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 10例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 14例】
- ・ 五類:梅毒 1例【1月以降の累積報告数 48例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

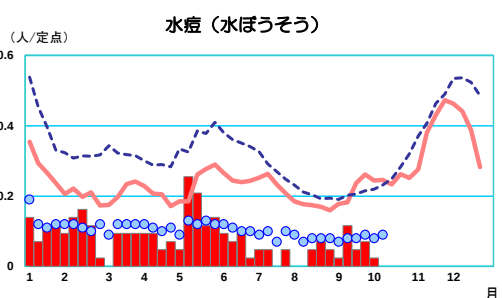
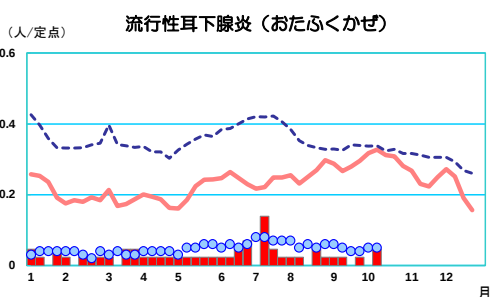
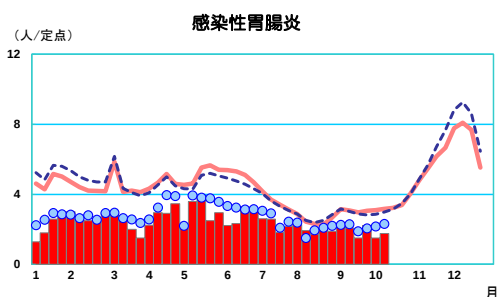
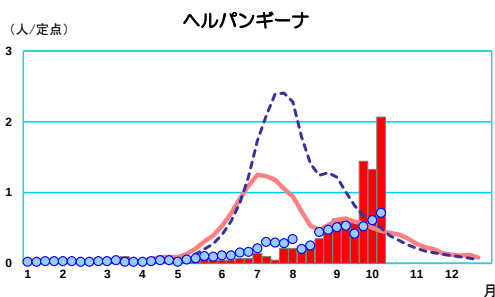
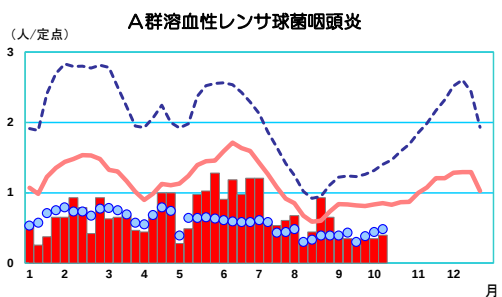
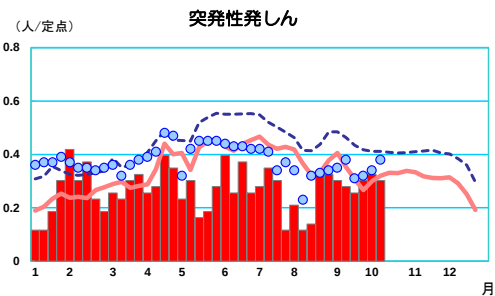
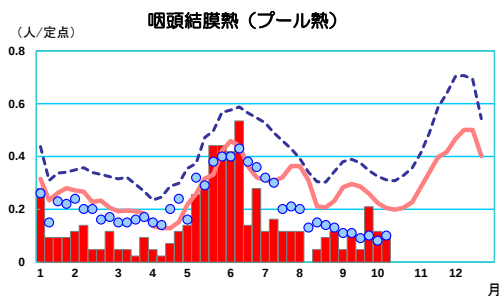
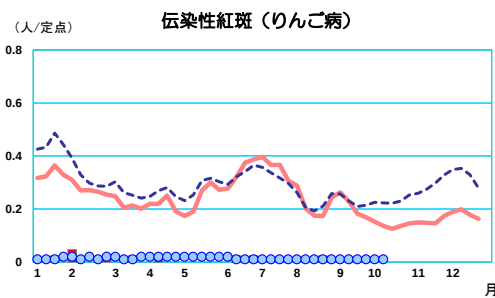
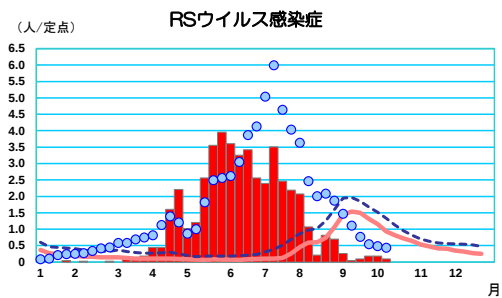
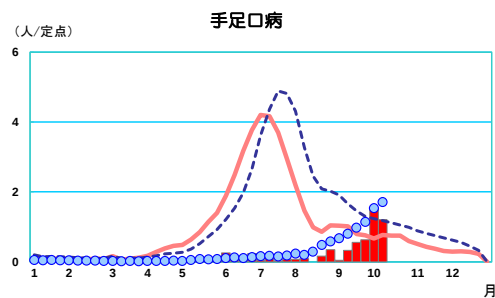
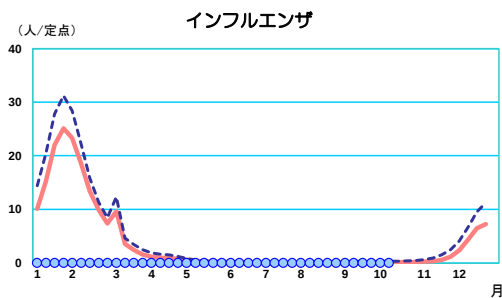
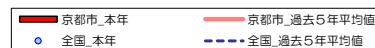
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① ヘルパンギーナ	2.07	89
	② 感染性胃腸炎	1.77	76
	③ 手足口病	1.21	52
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.40	17
	⑤ 突発性発しん	0.30	13
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

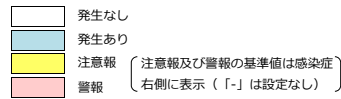
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年10月20日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

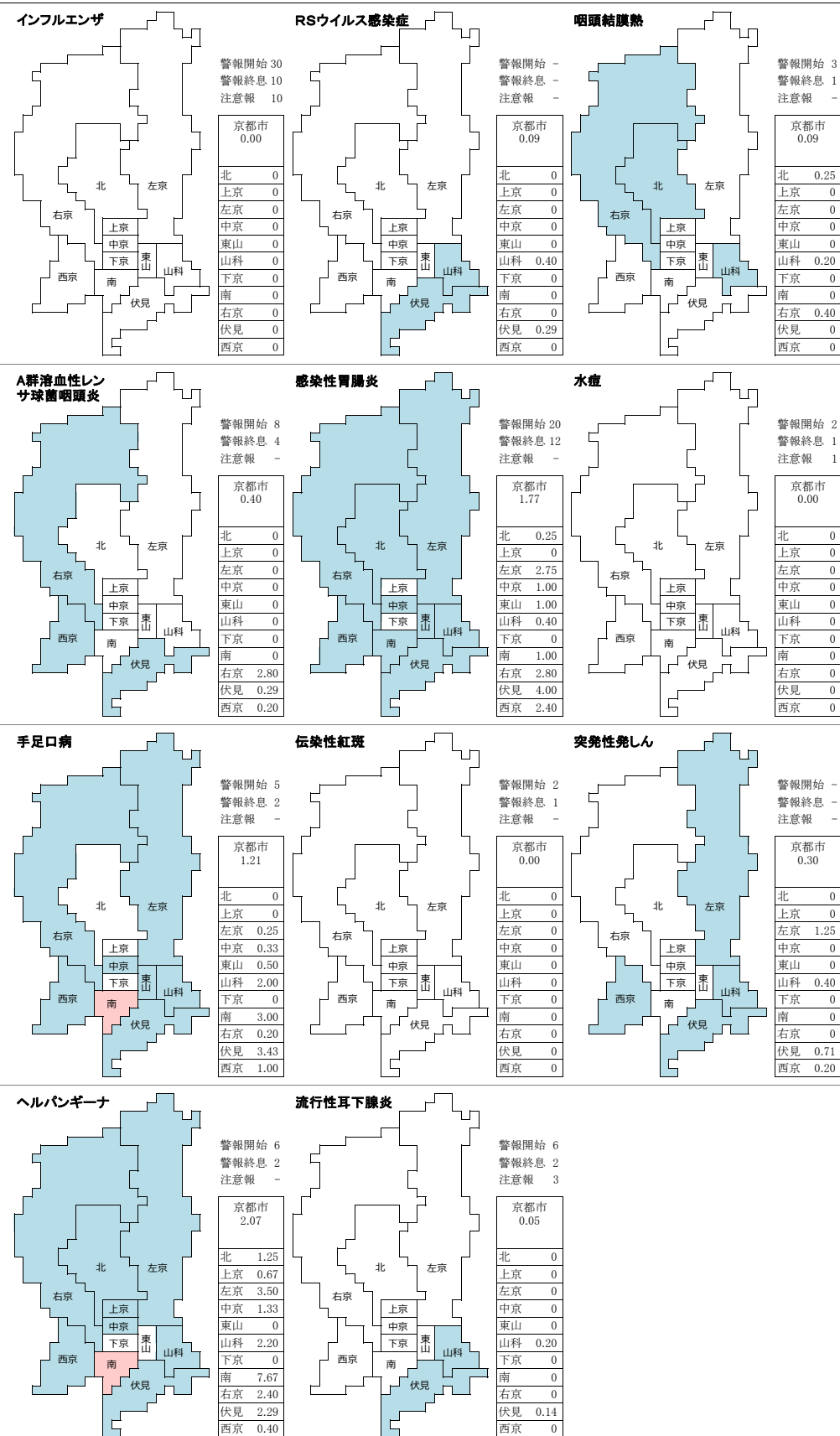
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第41週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第41週(10月11日～10月17日)トピックス: <ヘルパンギーナ>

京都市のヘルパンギーナの定点当たり報告数は、2.07(89例)と前週の1.33(57例)より増加しました。第39週以降「京都市の流行閾値」(過去のデータから算出した値で、それ以上報告数が増えたら確率的に非常に多い発生と考えられる値)を上回って推移しています(図1)。全国でも0.71(前週は0.61)と緩やかな増加傾向にありますが、都道府県別報告数は、大分県(3.06)、鳥取県(2.84)、山口県(2.33)、島根県(2.26)の4県のみが2を超え、その他の都道府県では特に北日本、東日本で低レベルでした(図2)。これは西から東へと流行の推移が見られる例年の傾向を示しているものと思われます。

また、年齢別報告数を見ると、京都市及び全国ともに5歳以下の乳幼児がほとんどを占めました(図3)。例年1歳代がもっとも多く、ついで2、3、4歳代の順で、0歳と5歳はほぼ同程度の症例が報告されており、年齢構成も例年と同じ傾向を示しています。

ヘルパンギーナは、夏風邪の代表的疾患で、毎年5月頃より増加し始め、7月頃にかけてピークを形成し、8月頃から減少を始め、9～10月にかけてほとんど見られなくなるのですが、今シーズンは夏場の報告数が低いレベルで推移し、この時期に報告数が増加していることが例年とは異なる傾向を示しています。「京都市の流行閾値」を超えたのも、季節を外れて増加していることが影響しています。

感染経路は、接触感染を含む糞口感染と飛沫感染で、新型コロナウイルス感染症流行時に実施された徹底した感染対策が、夏場の感染抑制に功を奏したものであると思われます。しかし、例年ほとんど報告されなくなるこの時期に増加の傾向が見られるのは、飛沫感染対策への気の緩みを反映している可能性が示唆されます。

症状は39℃～40℃の突然の発熱、咽頭痛の他、特徴的なのは口腔内に1～5mmの小水疱、これから生じた小潰瘍ができます。口腔内の水泡、潰瘍による痛みにより、不機嫌、食事がとりにくくなります。予後は良好ですが、まれに髄膜炎を生じることがあります。

予防方法としては、患者との密接な接触を避けること、タオル等の共用を避け、手洗いうがいを十分に行いましょう。治癒後も2～4週間にわたって糞便中にウイルスが排泄されることがあるため乳幼児のトイレやおむつ交換時の取り扱いに十分注意し、処理後は念入りな手洗いを徹底しましょう。

●こどもの感染症リーフレット(ヘルパンギーナ)

URL <https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/herupanngina.pdf>

図1 ヘルパンギーナ定点当たり報告数の推移

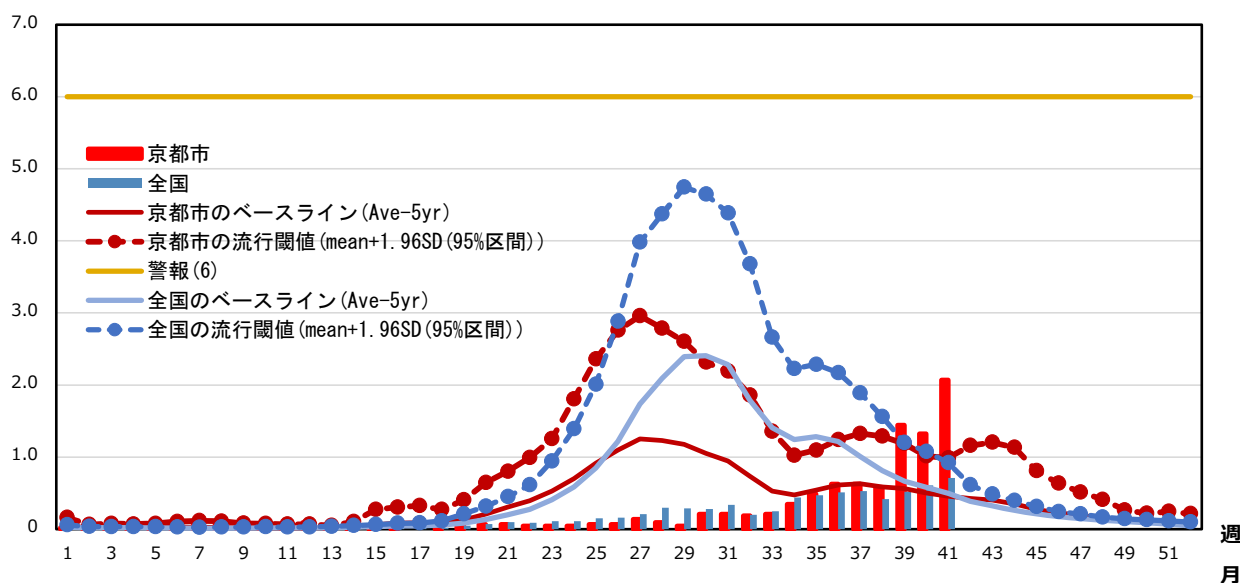


図2 都道府県別定点当たり報告数

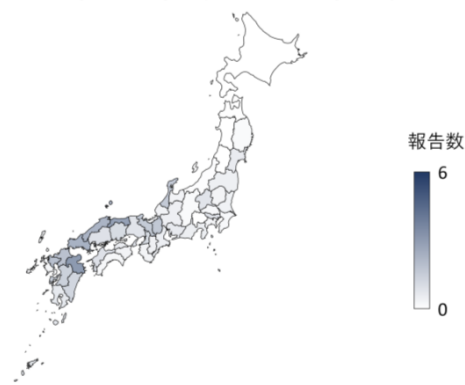
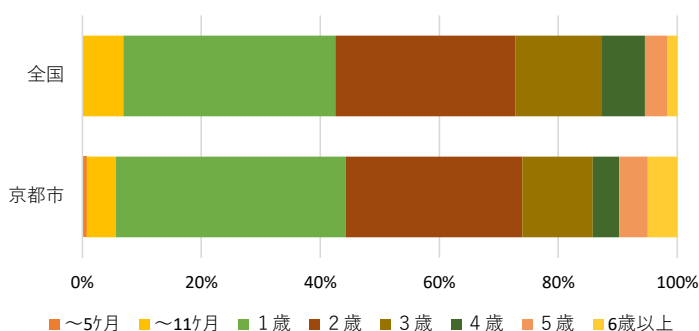


図3 年齢別報告数 (2021年41週の集計)



T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第41週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年10月11日～2021年10月17日

データ入手日:2021年10月20日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症	年齢3	4	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2						
咽 頭 結 膜 熱		4	－	－	2	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		17	－	－	2	4	3	－	3	1	1	1	1	1	－	－						
感染性胃腸炎		76	1	3	21	11	6	12	3	－	2	1	4	5	1	6						
水 痘		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
手 足 口 病		52	－	6	30	12	3	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		13	－	5	4	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		89	－	2	35	26	12	8	5	1	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		2	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳－	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳－	30歳－	40歳－	50歳－	60歳－	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳－	15歳－	20歳以上						
男女合計	年齢4	総数	0歳	1歳－	5歳－	10歳－	15歳－	20歳－	25歳－	30歳－	35歳－	40歳－	45歳－	50歳－	55歳－	60歳－	65歳－	70歳以上				
インフルエンザ ^{※1)}	年齢1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
RSウイルス感染症	年齢3	0.09	－	－	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.05						
咽 頭 結 膜 熱		0.09	－	－	0.05	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.40	－	－	0.05	0.09	0.07	－	0.07	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	－	－						
感染性胃腸炎		1.77	0.02	0.07	0.49	0.26	0.14	0.28	0.07	－	0.05	0.02	0.09	0.12	0.02	0.14						
水 痘		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
手 足 口 病		1.21	－	0.14	0.70	0.28	0.07	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.30	－	0.12	0.09	0.05	0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		2.07	－	0.05	0.81	0.60	0.28	0.19	0.12	0.02	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	0.02	－	－	0.02	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.10	－	0.10		
細菌性髄膜炎 ^{※2)}	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
クラミジア肺炎 ^{※3)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				
感染性胃腸炎 ^{※4)}		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第41週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年10月20日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症		11	2	4	8	8	4
咽 頭 結 膜 熱		2	5	2	9	5	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		18	15	11	15	15	17
感染性胃腸炎		96	89	65	95	65	76
水 痘		1	5	2	3	1	－
手 足 口 病		2	14	24	27	66	52
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－
突発性発しん		13	12	11	13	14	13
ヘルパンギーナ		27	27	25	62	57	89
流行性耳下腺炎		1	1	－	1	－	2
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	1	－	2	－	2
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		171	171	144	235	231	259

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		－	－	－	－	－	－
RSウイルス感染症		0.26	0.05	0.09	0.19	0.19	0.09
咽 頭 結 膜 熱		0.05	0.12	0.05	0.21	0.12	0.09
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.42	0.35	0.26	0.35	0.35	0.40
感染性胃腸炎		2.23	2.07	1.51	2.21	1.51	1.77
水 痘		0.02	0.12	0.05	0.07	0.02	－
手 足 口 病		0.05	0.33	0.56	0.63	1.53	1.21
伝 染 性 紅 斑		－	－	－	－	－	－
突発性発しん		0.30	0.28	0.26	0.30	0.33	0.30
ヘルパンギーナ		0.63	0.63	0.58	1.44	1.33	2.07
流行性耳下腺炎		0.02	0.02	－	0.02	－	0.05
急性出血性結膜炎		－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎		－	0.10	－	0.20	－	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)		－	－	－	－	－	－
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－
クラミジア肺炎 (※3)		－	－	－	－	－	－
感染性胃腸炎 (※4)		－	－	－	－	－	－
合 計		3.98	4.05	3.35	5.62	5.37	6.18

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。